

令和 7 年 7 月 2 日
一般社団法人中部地域づくり協会

防災啓発の取組が令和 6 年度全建賞 W(ダブル)受賞 6 年連続の快挙

- 高校生が小学校で防災講座の先生に
- A I 語り部で伊勢湾台風を次世代へ

(一社)中部地域づくり協会は、令和 7 年 6 月 27 日に『高校生が小学校で防災講座の先生に ～防災インフルエンサー育成に向けた取り組み～』、『A I 語り部で伊勢湾台風を次世代へ』により、(一社)全日本建設技術協会から令和 6 年度全建賞を 2 件受賞しました。(応募数 2 6 3 事業 受賞数 7 7 事業)

今回の受賞は、令和元年度から 6 年連続の受賞になります。

①高校生が小学校で防災講座の先生に～防災インフルエンサー育成に向けた取り組み～

【事業の概要と評価】

中部地域づくり協会 地域づくり技術研究所と岐阜県立岐阜総合学園高等学校が連携し、防災インフルエンサー育成の一環として、生徒が小学校で防災授業を担当できるよう育成。高校生が小学生向けに防災授業を行い、高校生自身の防災知識の定着と小学生の防災意識向上を図ることで、地域を担う若者に防災意識を身につけさせる工夫を凝らした効果的な取組が評価されました。

今年度も同様に取組を継続しており、今後も他校への拡大を視野に入れ、若者の防災(避難)インフルエンサーを育成する取組を推進していきたいと考えています。

②A I 語り部で伊勢湾台風を次世代へ

【事業の概要と評価】

伊勢湾台風から 65 年を迎え、人工知能を活用した「A I 語り部」により、防災講座を通じて、記憶や記録を次世代に伝える取り組み。記録集や体験談を AI に学習させ、生徒が質問するだけで、当時の状況を知る仕組みを構築。生徒の探索負担を軽減し、教師の負担も軽減する挑戦的な取組で、災害を風化させない活動が評価されました。

今年度の防災講座・防災イベント等における体験者の意見を踏まえて改良を行う予定です。

*全建賞は、我が国の良質な社会資本整備の推進と建設技術の発展を促進するために 昭和 28 年(1953 年)に創設され、日本の社会経済活動を支える根幹的なインフラ整備や、その時々の国民ニーズに沿った幾多の取り組みに授賞がなされてきました。

問合せ先

一般社団法人中部地域づくり協会 地域づくり技術研究所

所長 犬飼 一博

TEL: 052-871-9380

*中部地域づくり協会は、国土の利用、整備、保全、災害防止などの事業を行い、国土の健全な発展に寄与することを目的とする一般社団法人です。

【取組の概要】

① 高校生が小学校で防災講座の先生に

～防災インフルエンサー育成に向けた取り組み～

水害から大切な命を守るためには、地域を担う若者が防災の基礎知識を身に付け、「守られる人から守る人（地域の守り手）」になって地域防災力の向上を図る必要がある。

一般社団法人中部地域づくり協会地域づくり技術研究所と岐阜県立岐阜総合学園高等学校が連携し、生徒が防災の知識を身に付け、「過去の災害を伝えることができる」、「災害時に声掛けができる」、防災（避難）インフルエンサーとなれるよう、環境テクノロジー系列専攻の生徒 27 名を当研究所職員が先生となって育成した。

水害に関する事例、教訓や備えなどを学び、防災（避難）インフルエンサーとして小学生に伝え（教え）られるスキルを身に付け、小学校での防災授業の実践を具体的な目標とした。

高校生が防災授業を行う学校は、親近感のある、同じ学区内の小学校を選定し、5 年生 137 名を対象に行った。

最終目標を授業で小学生に教えることとしたことは、学習意欲の向上につながり、スキル習得にも効果的であった。小学生が年齢の近い高校生から教えてもらうことで、自分たちも将来そのような存在になりたいと感じ、大人が教える場合と比べ、高校生を手本としている様子が見受けられた。

また、小学生が、防災への興味と近い将来、地域づくりに携わることを目指すことにもつながり、次世代の人材育成にも寄与する。さらに、授業を受けた小学生が家に帰って親に伝えることで、防災の重要性の広がりが期待できる。

高校生の防災（避難）インフルエンサー育成
に向けた授業



高校生が先生となった小学校における防災授業



② AI 語り部で伊勢湾台風を次世代へ

伊勢湾台風の記憶と記録の伝承を目的とし、若年層を対象に、AI 語り部による伝承システム「伊勢湾台風 AI 対話システム」を制作した。このシステムは、防災教育支援として防災講座などで活用し、伊勢湾台風を次世代に継承する取組を進めている。

AI システムは、AI 会話ツールである ChatGPT（人工知能）を活用し、被災者の立場になりきって AI が回答を生成することで、対話型の学習を可能にしている。

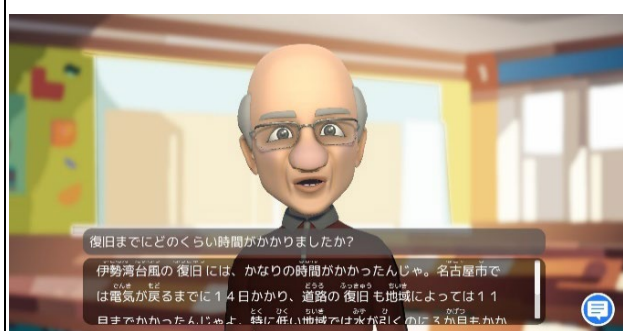
制作に当たり、適確な回答を導き出すために、子ども達が「何を知りたいのか」を把握する必要があると考え、愛知・岐阜県内 10 校の小・中学生、高校生から約 870 件の質問を集めた。伊勢湾台風の記録集や体験談などの資料をもとに回答を作成し、質問とともに AI に学習させた。生成する回答の正確性を確保するため、トライアルと修正を繰り返した。

さらに、より実用性が高いシステムとするため、伊勢湾台風で甚大な被害を受けた「弥富市立桜小学校」と連携し、試作を子ども達や先生に体験してもらい、その意見をシステムに反映した。

公開は、伊勢湾台風発生日の前日 9 月 25 日に、「弥富市立桜小学校」の防災講座で行った。対話型で自身の興味・関心に基づき伊勢湾台風についての理解を深めることで、子ども達が災害をより自分事として捉えるようになっている。

今後、防災教育支援への活用が期待でき、また、高齢化により伝承が困難な他の災害にも適用が可能なシステムである。

AI 語り部「伊勢 湾太郎さん」の回答画面



AI 語り部を活用した防災講座（弥富市立桜小学校）



(参考)

令和元年度受賞 VRを活用した新たな防災啓発活動 ～大切な命を守るために～

令和2年度受賞 コロナ禍における防災啓発の試み ～新しい生活様式を踏まえて～

令和3年度受賞 トrendで「伝わる」大雨への備え

～ピクトグラムやあつ森で住民避難を後押し～

令和4年度受賞 防災啓発でSDGs達成に貢献

～多様な繋がりで「大雨から誰ひとり取り残さない」地域社会を目指して～

令和5年度受賞 山間部でDX推進！

～低軌道周回衛星を活用したインターネット通信～